

記入日：令和２年９月１８日

所在地（都道府県/市町村）： 福島県西白河郡矢吹町		
法人名： 社会福祉法人 矢吹厚生事業所		
施設・事業所名： わーくる矢吹		担当者名： 小林 香
事業種類： 多機能型事業(就労継続支援Ｂ型・生活訓練)		
主たる障害： 知的・精神		令和２年３月末現在 定員： 34人
TEL: 0248-42-3077	FAX: 0248-21-8020	E-mail: info@worcle-yabuki.jp

① 令和元年度までの主な取り組み内容

縫製部 ・ 白衣・ユニフォーム製造 (制服関係・診察衣・調理衣・園児服・ブラウス・スモック・エプロン等) - ミシン・アイロン・プレス・たたみ作業 他 施設外就労部 ・ 段ボール製造工程作業 ・ 工場内清掃作業 ・ 果樹農園製品ラベル張り・箱詰め作業 ・ 選果場選別・箱詰め作業 ・ 病院内ゴミ回収・清掃作業 他
--

加工部

- ・ 小袋詰め作業
- ・ シール・テープ貼り作業
- ・ バリ取り作業
- ・ 配線組立て作業
- ・ リベット打ち作業
- ・ 部品組立て作業
- ・ 製品たたみ・箱詰作業
- ・ 書籍ブッカー貼り作業 他

弁当部

- ・ 弁当製造配達
- ・ 高齢者見守り弁当宅配
- ・ オードブル・お惣菜製造販売

② 施設・事業所における新型コロナウイルスの影響

- ・ 施設外就労において、就労先企業で時短勤務や休業日が出て収入が減少した。
- ・ 簡易作業において、取引先で材料が入荷しないため、作業量が減り収入が減少した。
- ・ 施設行事の中止

- ・ 3 密対策や感染症対策における想定外の備品購入等
- ・ 職員のテレワーク対策準備
- ・ 利用者の余暇活動等の内容変更(施設内での活動内容へ変更)
- ・ マスク着用の徹底
- ・ 昼休憩時間の分散
- ・ 職員歓迎会を施設内暑気払いへ変更

③ コロナ下において新たに始められた取り組みの内容

事例タイトル： コロナ禍を活用した生産活動の取り組み

取り組み内容：

- ・ マスクの製造・販売
- ・ EC サイトを活用した販路拡大、自治体への周知・販売
- ・ アイソレーションガウン(防護予防衣)の製造
- ・ フェイスシールドの受託製造
- ・ 海外に生産拠点を置いていた企業が国内生産に切り替わったことによる受注の拡大
- ・ 施設 PR 動画の撮影
- ・ SNS に生産活動の PR 動画をアップ
- ・ 内部研修の充実を図る
- ・ 県内雑貨屋ショップ、直売所などへの営業と販路開拓

④ ③の取り組みを始めたきっかけ・工夫した点

- ・ 市場で使い捨てマスクがなかなか手に入らない、または、高騰するなどの状況が続くマスク需要が高まったため、布マスクの製造・販売を始めた。
- ・ 優先調達法を活用した市町村等からのマスク受注が見込まれたため。
- ・ 地元の直売所などにマスクを置いていただくことで、口コミや大口受注に繋がること

が期待できた。

- ・ 日頃の取引先との繋がりが功を奏し、アイソレーションガウン(防護予防衣)製造に携わらせていただけるきっかけとなった。

- ・ 弁当部の業務で使用する使い捨てマスクが手に入らなかったため、自前で代わりとなる簡易的な不織布マスクを製造した。

- ・ EC ショップのサイト内で検索にヒットするよう文言や見せ方などを工夫してマスクを販売した。また、サイト内では、商品説明や画像アングル、見栄えなどを意識したレイアウトを心掛け作成した。

- ・ 画像や動画を様々なアングルから撮影し、明るく見やすいよう修正して、見せ方にこだわった。

- ・ 垢ぬけした栄える撮り方を YouTube 動画で模倣しながら作成した。

- ・ 動画を通じて施設での生産活動の様子を、企業や社会全体に PR 動画として広く周知し出来るようにした。

⑤ 取り組みの効果（売上や顧客、利用者、職員、地域等における効果）

- ・ 口コミでの商品受注や、「断らない」をモットーに良い仕事の開拓、良い仕事を納めることに重きを置き続けてきたことで、コロナに負けない受注量が確保できた。特に縫製作業では、海外に拠点をおいていた企業が国内での生産にシフトチェンジしたことで、切れ目のない作業量が頂けた。

- ・ EC ショップでは「いいね」が増えていくほど閲覧数も増え、毎日数枚ではあるが注文

が頂けた。また、EC ショップを活用することで、販路拡大に繋がった。

・アイソレーションガウン(簡易予防衣)では、民間の縫製会社のチームに参入させていただき、8月から毎月2,000枚の受注量を生産した。マスクも4月からカウントして5,000枚ほどの受注があった。コロナ禍で民間企業ですら仕事がない中、非常に有難い状況に感謝し、医療従事者の方々に貢献できているということ、障がいがあってもここまで出来るんだということを実感でき、逆境をチャンスに変え工賃向上に繋げることが出来た。また、民間企業とタイアップしたことで、「わーくる矢吹」を広く知ってもらえる機会となった。

・施設外就労先では、コロナ禍で一時は時間の短縮となったが、どこの企業でも人材不足が深刻化するなか、利用者の直向きで地道な頑張りが評価され「来てもらわなくては困る」企業から必要とされる存在として通うことができた。

・SNS や YouTube など動画を公開することにより、施設内の状況をより多くの方々に知ってもらえる機会となり宣伝効果にも繋がった。

⑥ ③の取り組みを開始するにあたり新たに導入した生産設備・備品（経費・財源）等

- ・テレワーク用 PC
- ・EC ショップ開設
- ・作業台
- ・非接触型体温計
- ・消毒用ウェットティッシュ

- ・ アルコール消毒液
- ・ 飛沫防止パネル
- ・ 使い捨てガウン
- ・ 使い捨て手袋
- ・ ハンドソープ
- ・ 作業用キャップ
- ・ ペーパータオル

⑦ 今後の課題・展望

・ コロナ禍には直接関係はありませんが、利用者のストレングスに着目し、障害があってもなくてもという社会の実現(インクルージョン)のため、能力的には高いものの、障害があるがゆえに、社会になじめない、生きづらさを感じている、主に発達障害の方々を中心に、現在、生活訓練事業中心の建物を建築中であり(来年3月には完成予定)、そこでハード面でのシチュエーションも整えながら、B型や一般就労へのステップとなるよう、生活訓練(SST や接遇、ビジネスマナー、コミュニケーションスキル、B型作業へ入る前の作業訓練)等を行っていく。

・ 刺しゅう機を導入予定なので、幅広く製品に付加価値を持たせ自社製品の開発、ECサイトの充実、雑貨屋や店舗に製品を置かせていただけるようサンプル作成・企画等を行っていく。それが形になっていくことで利用者の方々と一緒に成功体験を築き、自信に繋げていく。

- ・今後も施設の活動を広く知っていただけるよう、PR 活動の推進をしていく。企画運営していくなかで民間経営者やクリエイターの方々を巻き込みながら、ミーティング会議を開催しアイデア出しなど、一緒に参画していただく。
- ・できる事を広く周知してもらえよう取り組み、高工賃の受託を増やしていく。また、施設外就労を安定的に行っていく。
- ・弁当部の HACCP 導入と更なる食数の拡充、弁当作業棟の建築

～感染防止対策風景～





～分散休憩風景～



～作業風景～







～マスク縫製作業風景～



～予防衣裁断風景～



～内部研修の充実～





～弁当部作業風景～



